

平成 29 年度 第 4 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(JCDA) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

[問 1] 事例 I と II はキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例 I と II の違いを下記の 4 つの語句を使用して解答欄に記述せよ。(15 点) (主訴 経験 問題解決 自己探索)

事例 I では、Cct は CL の主訴である「気持ちの整理がつかない」に焦点を当て寄り添うことをせず、「転職は厳しいから出向を断らずに選択する」という Cct 独自の経験上の価値観で問題解決に向けようとしている断定的な展開である。一方、事例 II では、「動揺した」「惨めな気持ちとその意味」という CL の感情に寄り添いながら CL の自己探索を促し、気持ちの整理を一緒にしていくことで CL 自らがこれからの働き方を選択し問題解決へ向かえるよう促す展開となっている。

[問 2] 事例 I の Cct5、Cct8 と事例 II の Cct8 のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(15 点)

事例 I Cct7 相応しくない

「A さんの年齢での転職は厳しい…出向はよい選択」という応答は、キャリアコンサルタントの主観、価値観に基づいた提案であり、断定的である。CL8「でも…」の発言は Cct7 の提案に抵抗した内容である。

事例 II Cct4 相応しい

「すごく動揺した」という相談者の感情に焦点を当て、「もう少し詳しく教えて頂けませんか」と開かれた質問をすることで内在化された感情を明確にし、自己探索を促す応答である。

事例 II Cct6 相応しい

相談者の心の整理がつかない主な要因である「出向への抵抗」を明確化するため、「惨めな気持ちの意味」を言語化してもらうことにより、葛藤する感情を整理する応答である。

[問 3] 事例 I・II 共通部分と事例 II において、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を解答欄に記述せよ。(10 点)

内在された自身の不快な経験から「出向」についてネガティブな感情を抱き、今回の「出向」に投影しているため、本来の「出向」の意味や出向先の会社に関する情報、営業職について確認しようとしていないこと(仕事理解不足)。また、自己に対する評価が低く、受け入れ先は自分自身に価値を見出しているのではないという思い込みや認知的歪みが生じていること(自己理解不足)。

[問4] 事例Ⅱのやり取りについて、あなたなら今後どのようなやり取りを面談で展開するか、具体的に解答欄に記述せよ。(10点)

相談者が31年間、製造部門で一生懸命やってこられたことを労い、関連会社の営業職への突然の出向の話に対し動揺した気持ちに寄り添う。その上で、出向先の会社情報を収集し、新たな職務内容や雇用条件等を人事に確認することを提案する。また、今まで自分が働いてきた職務内容について棚卸しをし、強みや弱みについて確認した上で、営業職に活かせる自身の能力について明確にするよう促す。出向に伴い、ライフキャリアプランの再構築を提案し、それをもとに家族と十分に話をするよう勧め、家族からも応援してもらい、出向先の会社での新たな職務に前向きに向かえるよう促す。